



6/10 第2回デザインワークショップ 開催！ 新校舎の多様な可能性を探る。

新しい高松一高をデザインする。

高松第一高校を特色ある学校とするために、生徒・教職員、日本設計、京都大学門内研究室、高松市関係者などが一体となって新しい校舎をデザインしていく「高松第一高校デザインプロジェクト」を展開しており、これまでに3回ワークショップを実施してきました（5月13日に第1回、6月10日に第2回、7月8日に第3回）。

第1回ワークショップは、「第1部：現状と将来ビジョンについて」「第2部：新しい校舎の提案について」の2部構成で行い、それぞれ現状の校舎に対する意見、日本設計から提案された新しい校舎の案についての意見を図面上に書き出し、グループごとに発表を行っていただきました。その結果、第1部・第2部を通じて合わせて532枚ものポストイットが集まり、現状の校舎が抱えている問題点、新しい校舎案の改善すべき点などを明らかにすることができました（ニュースレター第1号を参照）。

第2回ワークショップでは、生徒が主体となって校舎をデザインする試みを展開しました。「デザインゲーム」という手法を使って、教室を図面上で並べ替えたり、新しい空間の提案を試みたり、といった自分たちの手でデザインするワークショップです。例えば、「今の校舎より、先生に質問がしやすくなるように、職員室を教室の近くに配置

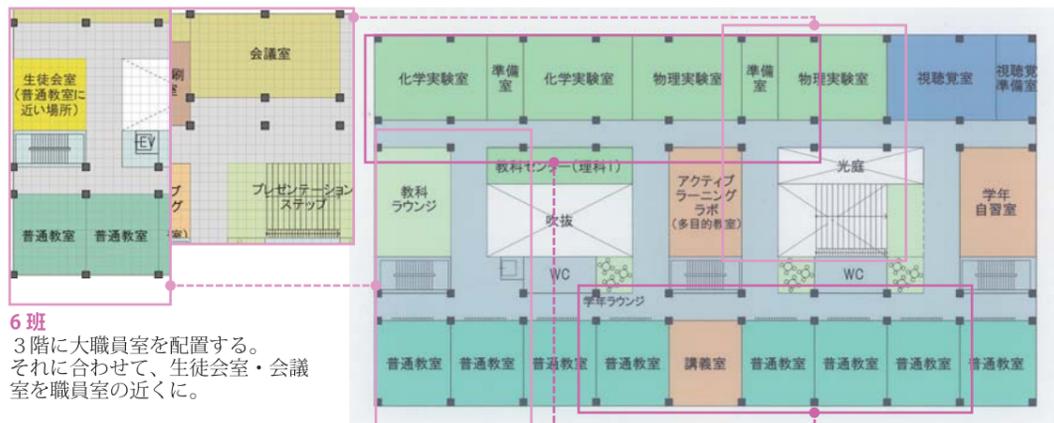
して、職員室の近くに質問コーナーを設ける」といった意見が出てきました。一高生・先生方の普段の生活経験から、「ここをもっとこうしてほしい」、「こんな一高にしてほしい」といった、より具体的なアイデアを得ることができる貴重な機会となりました。今回のニュースレター第2号では、第2回ワークショップの内容を報告します。

こうしてワークショップで集まった意見は、月2回のペースで開催されている「設計会議」（教職員、日本設計、京都大学、高松市等が参加）においても、非常に重要なものとして評価されています。生徒たちの意見をもとに、新たな議論が生まれたり、デザインの方向性が明確になったりするなど、設計案が進化していくきっかけとなっています。皆さんが出した意見や描いた夢が、実際の設計プロセスに影響を与えているのです。

建築の設計では、普通、設計者が中心となって設計を進めることが多く、実際に建築を使用するユーザーの考えを取り入れることはあまり行われていないのですが、高松第一高校では、ワークショップで得られる皆さんの意見・アイデアを組み込んだ設計プロセスが展開されています。みんなで力を合わせて、未来の高松第一高校を創っていきましょう。



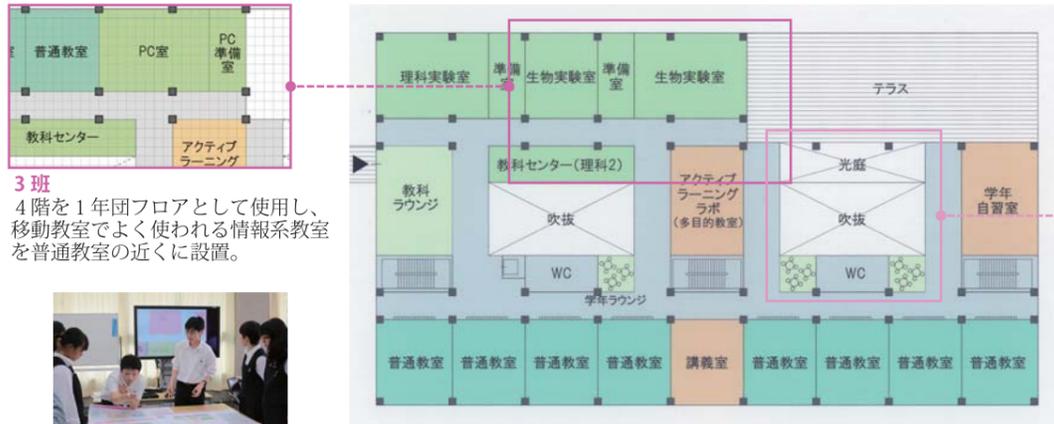
一高生・先生・設計者たちが議論を深め、デザインしていく新校舎の様々な姿。



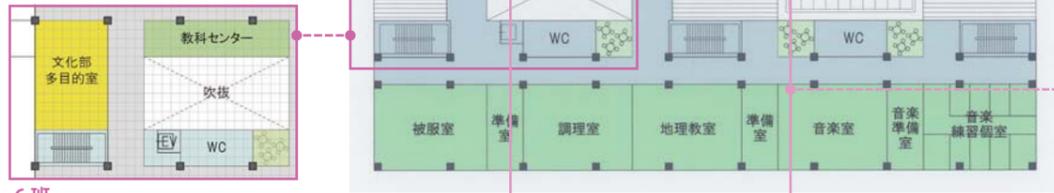
6班
3階に大職員室を配置する。それに合わせて、生徒会室・会議室を職員室の近くに。



3班
職員室のあり方について、2つの案を提示している。
A案：3階にひとつの大きな職員室を配置する。

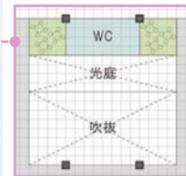


3班
4階を1年団フロアとして使用し、移動教室でよく使われる情報系教室を普通教室の近くに設置。



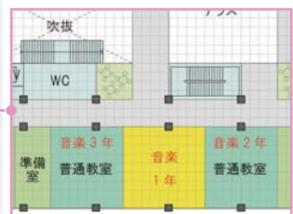
6班
芸術テラスを、文化部の部活スペース（多目的室）として活用する。

4階



3班
トイレを校舎北側にも分散配置

5階



3班
音楽科の普通教室を固めて、5階を音楽・芸術フロアとして利用する。

おわりに

第2回ワークショップでは、デザインゲームを通して、新しい校舎の様々な可能性を検討することができました。ワークショップに参加していただいた皆さんの貴重な意見が、新校舎の設計にも活かされています。近日中に刊行するニュースレター第3号では、7月8日に実施した第3回ワークショップの内容をお伝えします。

現在、設計案の基本的方向が定まりつつありますので、その内容をめぐって10月28日に第4回ワークショップを開催する予定です。皆さんの積極的な参加を期待しています。

